



〈雑録〉貨幣理論ノ一般的基礎 : リーフマン『貨幣と金』第一章全譯

リーフマン[著]

福田, 敬太郎(譯)

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 30(2):266-283

(Issue Date)

1921-02

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00053287>



貨幣理論ノ一般の基礎

—リーフマン『貨幣ト金』第一章全譯—

商學士 福田敬太郎

“Auri sacra fames.” 黃金ニ對スル咀ハレタル饑餓。此ノヴァイルデル〔譯者註一紀元前七〇—一九、羅馬ノ詩人〕ノ言葉ハ今モ尙ホ生キテ居ル。此ノ言葉ハ、黃金ヲ富ト同様ニ意味スル比喩的意義ニ於テノミナラズ、又文字通リニモ適用セラレル。今日モ尙ホ總テノ國ガ出來ルダケ多クノ黃金ヲ調達スルコトニ努メテ居ル。而シテ我々ハ如何ニ彼等ガ戰時ニ際シテ凡ユル手段ニ由ツテ黃金ヲ維持シ且ツ増加セント苦心シテ居ルカラ見テ居ル。一國ノ中央銀行ノ金有高ニ由ツテ。其ノ銀行券ノ金準備ニ由ツテ、其ノ國ノ爲替相場即チ外國ニ於ケル内國本位貨ノ相場ガ第一ニ判斷セラレル。戰後、帝國銀行ノ金有高ヲ出來

ルダケ高メ、銀行券ニ對シ出來ルダケ完全ナル金準備ヲ行ヒ、我國ニ交付セラルル賠償金ニ就テハ、何ヨリモ金デ支拂ハルルコトヲ要求スベシトノ多數ノ提案ガ行ハレテ來タ。大ナル黃金ハ餘計ノモノデアルトカ、又我々ハ黃金ヲ少クトモ大部分マデ、勿論最モ出來ルダケ都合ヨク除去スル方ガ爲メニナルトカ云フコトヲ今日主張スル者ハ今デハ最モ廣イ範圍ニ於テハ完全ナル無理解ニ遭遇スルデアラウ。彼ハ多數ノ實際家ト更ニ多數ノ最モ知名ナル學問的ノ經濟學者トノ側カラ反對ヲ受ケルデアラウ。此ノ兩方面カラ或ヒハ言ハレルデアラウ。「斯カル見解ニ對シテハ若干ノ、然シ極メテ疑ハシキ理論ガ辯護スル——クナツプ派ノ表現ヲ以テスレバ表章主義者 Chartist ナル名目主義者モ此ノ中ニハイ——然シ實際的・政策的ニハ金本位制ノ廢止ヲ促進スルコトニ就テ眞面目ニ論議スルモ得ルトコロガナイ。クナツプ及ビ表章主義——他ハイザ知ラズ——ハ或ル理論の功績ヲ持ツテ居ル

ダラウガ、(註、此ノ點ニ就テ予ハ反對シタイ。クナツブノ思
想ハ少シモ經濟的理論デハナイ。正シキ歸納的
ニシテ歷史的ナル觀察ノ不當ニ即チ唯々法律
的ニノミ根據ヅケラレタル主張ニ過ギナイ) 實際の本

位政策ニ對スル適用ヲ避ケテ居ルデハナイカ。

人々ガ非常ニ大ナル犧牲ヲ以テ造リ上ゲタ金本
位制ノ廢止ナドトハ眞面目ニ考ヘラレヤウ筈ガ
ナイト。畢竟、國內取引ニ於テハ純粹ナル紙幣
本位ガ可能デアリ、且ツ必ズシモ不利デハナイ
ガ、國際取引ニ於テハ本位ハ一般的「價值測定者」
タル金ト密接ニ結び付ケラレナケレバナラヌト
云フコトガ認めラレル。通常ソレニ就テ存在ス
ル説明ハ、國際貿易ノ霸者タル英國ガ金本位制
ヲ有シテ居リ、從ツテ我々モ若シ國際貿易上自
己ノ地位ヲ惡クナラナイヤウニシヤウト思ヘバ
亦金本位制ヲ採ラネバナラヌト言フノデアル。
何ガ此ノ見解ニ就テ正シイカ。若シモ其レヲ
迎ヘント欲スルナラバ、人々ハ唯々其レガ多少

歷史的ニ根據ヅケラレテ居ルト云フコトヲ學ゲ
得ルノミデアル。經驗ガ甚ダ屢々教ヘタトコロ
ニ依レバ、紙幣本位ノ諸國ニ於テハ甚ダ不利ナ
ル貨幣關係特ニ高キ且ツ常ニ變動スル物價ト、
從ツテ全經濟生活ニ於ケル不安定トガ存在ス
ル。更ニ經驗ハ、今カラ百年前ニ率先シテ金本
位制ヲ採用シタ英國ガ長キ間最モ確固タル、最
モ安定ナル貨幣關係ヲ有シ來リ、且ツ全世界ノ
金融取引ノ中心トナリ來レルコトヲ教ヘタノデ
アル。ソコデ多クノ國々特ニ獨逸モ亦金本位制
ノ英國の範例ニ倣ヒ、其ノ爲メ大ナル犧牲ヲ拂
ツタ。而シテ尙ホ新興諸國ハ金本位制ヲ採ツテ
居ル大商業國カラ與ヘラルル例ニ從フノヲ常ト
スル。

金本位制以外ノ他ノ本位制ヲ獎勵スルトコロ
ノ總テノ理論ニ人々ガ大ナル不信用ヲ齎ラスコ
トハ理論的ニモ不正ナリトセラレナイ。複本位
論、論争ガ學問的粉裝ヲ着テ全世界ヲ不安ニシタ
コトハ如何ニ久シイコトデアツタカ。其ノ論争

ニ於テ敵、モ味方、モ貨幣理論ノ實際行ハレタル科學的穿鑿ガ如何ニ貧弱デアツタカハ當時氣が付カナカツタ。其レハ經濟學上、歷史學、派ノ時代デアツテ、唯、歷史的且ツ實際政策の問題ノミガ興味ヲ惹キ、貨幣問題ニ於テハ唯、金本位、銀本位ノ對立問題及ビ其レカラ生ズル諸問題ノミガ論ゼラレタ。此等ハ貨幣理論ヲ深メルコトニハ何等導キトナラス。複本位の思想ハカノ純粹ノ經驗主義ヲ以テ取扱ハタレノデアツテ、其ノ經驗主義ハ今日モ尙ホ、貨幣學說ニ於ケル明カナル經濟的理論ヲ缺クガ故ニ、勢力ヲ振ヒ而シテ目的ニ適フト云フ根據カラ金本位制ヲ推擧スルノデアアル。然シ乍ラ複本位主義ノ反對者モ遵奉者モ彼等ノ主張ヲ一ツノ理論的外套ヲ以テ着飾ツテ居ル。其ノ外套ハ、今日貨幣論及ビ經濟一般ノ本質ニ於ケル我々ノ進歩シタル洞見ノ見地ヨリスレバ、屢々全ク噴飯ニ値スルモノデアツテ且ツ經濟ノ最普遍的理論的根據ニ關シテ全然不明瞭デアアルコトヲ決シテ覆フコトハ出來ナイ。

從ツテ貨幣問題ノ國家的規制モ亦純然タル經驗的ノモノデアツタ。人々ハ恰モ善良着實ナル商人ノ行フガ如ク行ヒ、且ツ殊ニ新獨逸帝國ハ着實ニ處シテ行クコトニ努メタ。金本位制ハ最モ確實ナルモノデアツテ、國內ニ於ケル甚ダ大ナル金流通ハ我國ノ經濟的確實性ノ最良ノ徵トシテ現ハレタ。英國ハ久シク最モ確實ニシテ又最モ安定ナル貨幣關係ヲ有シテ來タ。而シテ人々ハ理論の根本問題ニ就テハ多ク頭ヲ悩マスコトナクシテ其ノ經驗ヲ利用シタノデアアル。

豐富ナル金流通ニ基礎ヲ置クトコロ、獨逸ノ貨幣組織ノ堅實性ハサレバコン當時ニアツテハ決シテ非難サルベキモノデナイ。極端ナル金屬主義者ノ立場ヨリスレバ此ノ獨逸貨幣組織ハ一億二千萬馬克ノ無準備ニシテ不換ナル金庫證券ニノミ惜ムベキ瑕疵ヲ有シテ居ルノデアアル。斯クノ如キ金本位制ハ其レ以前ノ貨幣組織ノ一般的不安定ヲ取り除クタメニ歷史的ニ不可缺デアツタ。而シテソコデ初メテ其レハ、後ニ我々ガ

知ル如ク、如何ナル形態 Gestalt 又如何ナル「準備」Deckungヲ取ルニモセヨ等シク貨幣ノ前提條件タルトコロノ貨幣單位ニ對スル一般的信任ヲ造ツタ。人々ハ三十億乃至四十億馬克ヲ支拂要具ニ固定スルトコロノ此ノ金流通ノ多大ノ費用ヲ避クベカラザルコトトシテ忍從シ、又英國ガ金生産ノ最大部分ヲ自國ノ植民地ニ於テ得且ツ其ノ販賣ニ由リ巨大ナル利益ヲ得ル上ニ自ラハ比較的極メテ小ナル金有高ト金流通トヲ持ツテ居ルノデ、其ノ英國ヲ或ル嫉妬心ヲ以テ眺メタ。既ニ第十九世紀ニ於テ英國式ノ非正金の支拂取引ノ優越セルコトハ屢々示サレタノデアアルガ、然シ其レヲ督勵スルコトニハ何事ヲモナサズシテ、獨逸ハ厚イ金鎖ヲ以テ見榮ヲ張ルコトヲ最大ノ名譽ト心得テ居ル俄分限者ニ似テ居タ。

貨幣組織ニ於ケル一切ノ堅實性ノ原型トシテ斯ク金ヲ尊重スルコトニ科學ガ最モ重大ナル持分ヲ有シテ居タコトヲ見誤ツテハナラヌ。予ガ

數量、的、物質、的、ト名ヅケ、又貨幣學說ニ於テ金屬主義、的、ト呼バルルトコロノ經濟理論ガ勢ヲ振ヒ來リ、今日モ尙ホ振ヒツツアル。此ノ學說ハ經濟ヲ「物、財、調、達」Sachgüterbeschaffungト見、一切ノ非物質的ノ財及ビ給付ヲ無視シ、「財ガ財ト比較セラルル」場合ニノミ交換ガ可能デアルトシ、即チ斯カル見解ニ於テハ、財ノ固有ノ性質ニ由ツテ其レニ內在スルトコロノ客觀的利用ト云フ「實體價值」Substanzwertノ觀念ヲ今尙ホ固執シテ居ル。斯クテ人々ハ、結局、價值ヅケラレタル財 Wertgeschätzte Güter 素材價值ヲ有スル材ノミガ相互ニ交換セラレ得ルモノデアルコト又一般的交換要具トシテノ貨幣ハ斯カル一般的價值アル財デアルカ、然ラズバ斯カルモノ上ニ基礎ヲ置カネバナラヌノデアツテ、斯クノ如キ交換要具トシテ貴金屬ガ其ノ固有ノ特性ノ爲ニ以前カラ利用サレテ來タコトヲ認メテ居ル。價值ヅケラレタル財トハ——必シモ物財デナクトモ——實際ニ於テ貨幣ノ受領者ガ其レヲ

以テ交換シ得ルト期待スルトコロノモノデア
ルト云フコト、即チ貨幣ノ「價值」ハ各人ガ、其
レニ換エテ自己ニ價值アル或ルモノヲ買ヒ得ル
ト知ルガ故ニ、其レヲ受ケ取ルコトニ基クト云
フコトヲ人々ハ理解シナカッタカ、若クハ其レ
ヲ理解シタトコロノ少數者モ、個々ノ經濟者
Wirtschaftler ノ心理ニ觸レナイトコロノ從來ノ
唯物的經濟觀念ヲ以テハ其レヲ根據ツケルコト
ガ出來ナカッタ。

固有ノ素材價值ナキ貨幣ノ發行ハ實ニ新時代
ニ於ケル初メテノ成果デアルガ、斯カル發行ガ
金屬本位及ビ金屬ヲ以テスル銀行券ノ嚴格ナル
兌換規定ト密接ナル關係ヲ保ツテ爲サレル場合
ニ於テノミ、正シキコトヲ證シ即チ害ナキコト
ヲ示シタ。然シ乍ラ諸國ハ危機ニ際シ、タトヒ多
少私的ノ發券銀行ヲ通ジテ間接ニデハアルケレ
ドモ、紙幣發行ニ由ツテ新シキ收入ヲ造ルベキ
手段ヲ適用シタコトハ甚ダ屢々デアリ、又斯カル
貨幣膨脹ノ有害ナル作用ヲ見タコトモ甚ダ屢

々デアルノデ、人々ハ凡ユル非金屬的又ハ金屬
的ニ準備セラレザル流通要具ニ對シテ甚ダ不信
用ヲ抱カザルヲ得ナカッタ。確固タル貨幣制度
ガ可能ナルベキハ、唯、制限的ニノミ増加セラ
ル貴金屬ヲ以テスル非金屬的支拂要具ノ嚴格ナ
ル兌換規定ニ由ツテ貨幣量ヲ思フママニ増加ス
ルコトノ可能性ガ國家カラ總ハル場合ダケデア
アルラシイ。第十九世紀ノ最後ノ十年間ニアレ
程大ナル活躍ヲシタトコロノ複本位主義的思想
スラ、主要列國間ノ國際的一致ノ上ニ其レガ實
行セラルルコトヲ學問ガ確信シタトシテモ、兩
貴金屬ノ比價ガ一對三十ニ陷ツテ居ル限りハ不
安定ナリト認メラレタ。最大ノ商業國タル英國
ガ金本位制ヲ採リ、疑ヒモナク既ニ久シキ間安
定ナル貨幣關係ヲ有シテ居タ。而シテ外國貿易
及ビ其ノ決済ノ確實ノ爲メニダケデモ、金本位
制ハ國際貿易場裡デ役目ヲ勤メ且ツ着實ナル商
人ノ代表者トシテ立タウト思フ國ニ取リテ考慮
ニ入り來ルベキ唯一ノモノト見エタ。

學問ト商人ノ實際トガ金本位制ノ霸權ノ下ニ

結ビ付イタ。即チ本位制トシテ他ニ並ビナキ且ツ一度ビ實施セラルル限リハ永久ニ存續スルモノト考ヘラルルトコロノ金本位制ノ優秀ナルコトニ就テノ専ラ經驗的ニ獲ラレタル確證ヲハ學問モ經驗的ニ認メタ。斯クテ貨幣組織ノ問題ハ九十年代ノ中葉頃ニ複本位主義ノ最後ノ大活動ガ砂ニ塗レテカラ以後、實際上終ヲ告ゲ、殆ド全ク公ノ議論カラ消エセタヤウニ見エタ。何人モ金本位制ヲ攻撃スルコトヲ敢テシナカツタシ、又今日ニ於テモ大體ニ於テ敢テシナイ。金本位制ハ最モ廣キ範圍ニ於テ自明ノ理トシテ、*Wyllie says Yes* トシテ存シテ居ル。多クノ金ヲ流通カラ引キ上ゲ、此ノ多クノ代リニ非正金の支拂方法ヲ用ヒルコトガ精々求メラレルダケデ而カモ大抵ノ人々ハ帝國銀行ノ黄金ノ能フ限リノ増加ヲ辯護シタ。ソシテ發券銀行ガ一度ビ外國ニ於ケル金購買ニ由リテ金有高ヲ増加スルコトニ成功スルナラバ何處ニ於テモ然ル如ク我國

ニ於テモ人々ハ喜ブ。

既ニ夙ニ二三ノ經濟學者ハ、ヨシ政府ダケハ收納ノ實行ノ手段トシテ紙幣ヲ利用シナクテモ少クトモ國內取引ニ於テハ、紙幣本位制ガ金屬の根據ノ上ニ樹テル貨幣制度ト全ク同様ニ一般の交換の要具トシテ用キラレルコトヲ、十分ニ觀察シタ。特ニ一八七九年以來ノ奧太利ノ貨幣制度ノ例、即チ紙幣グルデンガ、ソレガ増發セラルルコトガナカツタノデ、元來其ノ基礎ト成ツテ流通シテ來タトコロノ銀貨グルデンノ價值以上ニ騰貴ガアツタ事例ハ、一國ノ貨幣制度ガ實質的素材ニハ關係ガナイコトノ決定的ノ證明ヲ成シモタノデ、此レ何人モ無視スル能ハザルトコロデアアル。二三ノ國ニ於ケル純然タル紙幣本位制ニ於テ、紙幣ハ完全ニ獨立セル、各々ノ金屬的根據カラ獨立セル價值ヲ有シ、而シテ國內取引一般ニ認ムベキ重要ナル動搖ナクシテ其ノ價值ヲ持チ續ケテ居ル事實ハ、常ニ、殊ニクナツブニ由ル明徹ナル分析ニ於テ、多クノ經濟

學者ガ彼等ノ他ノ極端ナル唯物的理論トハ全ク矛盾シテ、一ツノ名目主義的貨幣觀念ヲ取ルノ餘儀ナキニ至ル風ナル印象ヲ、經濟學ニ與ヘタ。今日一般ニ見ラルル如ク人々ガ經濟ヲ以テ物、財、調達、價格ヲ以テ財、額、*Gütermenge* ト解スル以上、人々ガ交換交通、價格構成、所得構成ヲ其ノ場合ニ單ニ數量的ニ財額ノ關係ト觀ジ且ツ個人ノ經濟的考慮ニ對スル關係カラ切り離ス以上其ノ限リハ貨幣ヲ物質的價值ヲ有スル財、量、*Güterquantum* 以外ノ或ルモノト見ルコトハ不可能デアリ、ソノ限リハ經濟理論ノ一般的根據ニ由ツテ名目主義的貨幣觀念ヲ學問的ニ基礎付ケルコトハ不可能デアル。兩者ハ相互ニ解クベカラザル矛盾ニ立ツテ居ル。此ノ矛盾ハ特ニ特長ノアル様式ニ於テ「社會經濟學原論」第一卷ニ於ケルウイザーノ大論文ニ於テ現ハレテ居ル。

(Wieser, Grundriss der Sozialökonomik.) 其書ハ特ニ極端ナル唯物的經濟觀念ト、部分的ニ甚ダ進歩セル見解ヲ持テル名目主義的貨幣學說トヲ

結び付ケテ居ル。其ノ貨幣學說ダケハ彼ノ他ノ理論ニ全然一致シナイモノデアル。

貨幣ハ單ナル符牒デアリ手形デアリ表象デアリ、必ズシモ固有ノ素材價值ヲ持ツテ居ナクトモヨイト云フ思想ハ既ニローヤロツクノ時代以來多クノ理論家ニ由ツテ唱ヘラレテ來タ。然シ乍ラ此ノ思想ハ他ノ經濟理論ニ一致シナイノデ人々ハ如何ニ處分シテヨイノカ判ラナカッタ。

近時ニ於テハ名目主義的貨幣觀念ガ先ヅ第一ニオー・ハンマーノ「貨幣及ビ本位問題ノ主要原理」(ウイーン・一八九一年)ニ由ツテ(O. Hammer, Die Hauptprinzipien des Geld- und Währungs-wesens, Wien 1891.) 次ニ特ニオット・ハインノ多クノ著書(「外國貿易ニ對スル金準備紙幣本位制」一八九四年 *Papierwährung mit Goldreserve für den Auslandsverkehr*; 「貨幣論上ノ誤謬」一九〇〇年 *Irrtümer auf dem Gebiete des Geldwesens*.)ニ由ツテ主唱サレテ居ル。然シ乍ラ此ノ世紀ニ於テハ即チ一九〇五年ニゲー・エフ・

クナツブガ初メテ、其ノ著書『貨幣、國、定説』

(*Staatliche Theorie des Geldes*)ニ由ツテ一層強

キ打撃ヲ與ヘ、何ラノ素材價值ナキ貨幣ノ可能

性ヲ力説シタル名目主義的即チ表章的貨幣觀念

ニ若干ノ遵奉者ヲ得タ。然シナガラクナツブガ

彼ノ觀念ニ對シテ與ヘタトコロノモノハ全ク非

經濟的デ純法律的根據デアツタ。其レニ由レバ

國家の名目價值命令 *Nennwerthefehl* ガ貨幣購

買力ノ決定者デアリ、即チ國家ノ濫用ガタトヒ

其ノ最少限度ニ止マツテ居ル場合ニモ存在スル

金屬ニ由ツテ根據付ケラレナイ貨幣制度ニ對ス

ル恐怖ヲ、尙ホ一層強メルヤウニナルニ先ツテ

國家ガ貨幣ノ購買力ヲ決定スルコトヲ得ベシト

云フノデアルカラ、從ツテクナツブモ亦彼ノ學

說ノ實際的適用ニ就テハ今日ノ金屬主義的本位

制ノ代リトシテ何モノヲモ考ヘヤウトハ思ハヌ

而シテ彼ノ遵奉者ノ數モ制限セラレテ居ルシ、

彼等ハ總テ、當然ノコトデアアルガ、名目主義

的貨幣觀念ノ經濟的根據ヲ缺除シテ居ル。故ニ

ペンディイクセンモ『貨幣、及、資本』 (*Geld und*

Kapital) (一四頁)ニ於テ、クナツブノ著書ヲ

系統的ナル『經濟的貨幣理論』ニ由ツテ補正ス

ルヤウナ理論家ガ直チニ現ハレンコトヲ望ム、

ト云ツテ居ルノデアアル。

此ノ願ハ此處ニ滿サレナケレバナラナイ。蓋

シ此ノ願ヲ滿スコトハ、此レ迄缺ケテ居タトコ

ロノ一切ノ貨幣問題ニ於ケル明確性ニ對シテ、

絶對的ニ必要ナル前提ヲ成スモノデアルカラデ

アル。然シ乍ラ此ノ願ハ、貨幣ハ單ニ「法制ノ所

産」デアリ、國家ハ其ノ名目價值命令ニ由ツテ

貨幣ノ購買力ヲ決定スルモノデアルト云フクナ

ツブ流ノ觀念ヲ自ラ最モ峻嚴ニ否定スルコトニ

由ツテ滿サレルノデアアル。

唯、此レ迄ト全ク異レル貨幣ノ觀念ヲ以テ、又

此レ迄ト異レル經濟理論ノ根底ノ上ニノミ、ク

ナツブ並ニ他ノ貨幣論者ノ正シキ觀察ガ解明

セラレ且ツ經濟的ニ根據付ケラレルコトニナ

ル。實際予ハ予ノ經濟理論トヲ以テ「不可解

ノ謎タル貨幣（ラフリン、ペンデイクセン）其
ノ他、此ノ「ゴルデウスノ額」（ジエヴォンス、
アルトマン）ヲ解キ、而シテ總テノ其レニ關聯
スル論爭ヲ解明シ得ルト信ズル（註。然シテ本書
ル問題ノミヲ取扱ヒ、總テノ無數ノ特ニ於テハ唯重要ナ
殊問題ニ就テハ立入ルコトガ出來ヌ）。其レガ可能デア
ル譯ハ予ガ、常ニ唯、直接ニ國家的ナル若クハ國
家ニ由ツテ特權付ケラレタル支拂要具ノミヲ考
察シタル從來ノ一切ノ理論ト全ク異ナレルモノ
トシテ貨幣ヲ觀ズルカラデアアル。然シ此ノ新シ
キ貨幣觀念モ、唯、予ノ他ノ心理的經濟觀念並ニ
其ノ上ニ建テラレタル經濟的理論一般ヲ以テノ
ミ根據付ケルコトガ出來ルノデアアル。

予ノ貨幣觀念ノ根據付ケニ就テハ予ハ此レ迄
ハ悲シイコトニ既ニ完全ニ出來上レル予ノ經濟
理論ノ全敘述ニ關係セシムルコトガ出來ナイデ
居ル。假令予ハ、勿論他ノ著作ノ爲メニ多クノ
中斷モアルガ、兎ニ角十年以上モ此ノ體系ノ完
成ノ爲メニ從事シタケレドモ、而カモ其レハ其
ノ全根底ニ於テハ、一切ガ根底カラ新ニ築キ直

サレネバナラヌホド從來ノ理論カラ離レテ居ル
ノデアアル。斯クノ如キ大問題ハ徐々ニ成熟スル
コトヲ要シ、從來ノ各種ノ觀念及ビ方向トノ久
シキ對抗ヲ要スル。予ハ此レ迄予ノ理論ニ關ス
ル多數ノ論文ヲ發表シタ。其等ヲ予ハ最終ノ根
底ヲ檢セント欲スル人々ニ推舉スル。貨幣論ヲ
除イテ、全體ノ系統的敘述ハ戰爭ノ始マル前ニ
四分ノ三マデ完成シテ居タ。然シ予ハ爾來長イ
間、第一ハ予ノ軍事的行爲ノ爲メ、次ニ他ノ事
情ノ爲メ、其ノ完成ヲ妨ゲラレタ。ソコデ予ハ
貨幣論ヲモ其ノ中ニ引キ入レル必要ト、且ツ予
ノ理論ガ此ノ點ニ就テ有スル大ナル實際的意義
トラ認メタ。此ノコトハ予ヲシテ先ヅ貨幣論ヲ
更ニ樹ツルニ至ラシメタ。二卷ニ亘ル予ノ理論
ノ系統的敘述タル「國民經濟學原理 Grundriss-
ze der Volkswirtschaftslehre」ハ一九一七年ニ
現ハレルコトガ出來ルデアラウ。（譯者註、第一卷
第二卷ハ一九一九年ニ）
夫々公刊セラレタ。）

讀者ハ此レ迄ニ一九一六年一月及ビ二月號ノ

「經濟學統計學年報」(Jahrbücher für Nationalökonomie und Statistik) 所載「經濟學ノ客體本質並ニ問題」(Über Objekt, Wesen und Aufgaber der Wirtschaftswissenschaft) ト題スル

二論文ニ於テ、從來ノ經濟理論トノ抗論ヲ見ルコトガ出來ル。該年報ニ於テハ予ノ經濟ノ觀念ニ對シテ根底トナル二論文即チ一九一三年十一月號ノ「經濟ノ本質及ビ國民經濟學ノ出發點」

(Das Wesen der Wirtschaft und der Ausgangspunkt der Nationalökonomie) 及ビ一九一四年六月號ノ「經濟ト技術」(Wirtschaft und Technik) ガ發表サレテ居ル。更ニ根本的ナル論述特ニ貨幣理論ニ對シテ決定的ナル費用概念ニ就テノ論述ヲモ、予ハ予ノ「國民經濟學原理」第一卷ニ引キ入レルコトヲ企テテ居ル、貨幣理論ト密接ナル關係ヲ有スル予ノ資本理論ヲ讀者ハ一九一七年ノ「國家學雜誌」(Zeitschrift für die gesamte Staatswissenschaft) 所載「資本ト資本主義」(Kapital und Kapitalismus) ナル論文ニ

於テ見出スデアラウ。貨幣理論ハ自ラ價格論・所得論ト最モ密接ナル關係ヲ有スルノデ、貨幣ガ今日尙ホ「不可解ノ謎」デアルト云フコトハ、大部分、今日ノ經濟生活ノ事實上ノ前提ノ下ニ於テ價格構成ノ問題ヲ説明スルコロノ眞實ノ價格理論ガ此レ迄存在シテ居ナイコトニ歸スル。

予ハ價格ノ説明ニ就テハサシ當リ唯々一九二二年ノ「社會科學及社會政策彙報」(Archiv für Sozialwissenschaft und Sozialpolitik) 第二十四卷所載ノ予ノ大ナル論文「主觀的評價ヨリスル價格ノ成立」(Die Entstehung des Preises aus subjektiven Wertschätzungen) 及ビ價格論ト所得論トノ關係ヲ取扱フトコロノ同誌一九一五年分第四十一卷所載論文「競爭及ビ獨占論」(Konkurrenz und Monopoltheorie) ダケヲ示スニ止メテ置ク。全價格論及ビ所得論ハ予ノ「原理」第二卷ニ於テ系統的ニ發表セラルベキデアル。第二卷ハ既ニ第一卷ヨリモヨホド進捗シテ居ル故予ノ望ム如ク第一卷後直チニ公刊セラレ得ルデ

アラウ。

* * *

總テノ予ノ理論的著作カラ予ハ以下ノ貨幣ニ
關スル研究ニ對シテ看過スベカラザル點ヲ出來
ルダケ簡短ニ次ノ如ク纏メル。予ノ見解ニ從ヘ
バ經濟スルコトハ生産スルコトデハナク、此レ
迄ノ理論ガ常ニ考ヘテ居タ如キ「物財調達」ト
ハ同意義デハナイ、其レハ決シテ技術的行爲デ
ナク、「外的自然ノ對象ニ存スル不足ノ克服」デ
モナイ。其レハ實ニ或ル心理的ノモノ、一種ノ
考量即チ快感ト不快感トヲ比較スルコトデアル
此ノコトハ嚴格ニ維持セラレネバナラス。然シ
乍ラ固ヨリ全テノ人間行爲ニ就テ起ルトコロノ
快感不快感ノ比較ガ悉ク經濟ト呼バレテハ居ナ
イ。我々ガ經濟ト云フノハ寧ロ唯、獲得ノ爲メ
ニ費サルル不快感・犠牲ト、由ツテ獲ラルルヨ
リ大ナル快感・享樂トガ比較セラレ、且ツ人間
ガ如何ナル範圍ニ於テ又如何ナル程度ニマデ、
彼ガ最も可能ナル大量即チ極大限ノ享樂ヲ獲得

スル爲メニ、不快感・犠牲ノ費消ヲ、各種ノ得
ラルベキ快感若クハ享樂ニ對シテ用意シ又準備
スルデアラウカ、ト云フ問題ニ際會スル場合ノ
ミデアル。此ノ努力カラ生ズル考量即チ享樂ノ
極大限ノ獲得ノ爲メニ費サルル犠牲ニ就テノ最
合目的的處理(zweckmässiges Disponieren)ヲ内
容トスル考量ヲ我々ハ經濟ト云フノデアル。斯
クハ如キ不快感若クハ犠牲ハ在リ得ル、即チ勞
働ノ苦痛カ又ハ物財上ノ犠牲カデアル。貨幣額
ノ費消ハ後者ニ加ヘ得ル。兩者ノ區別セラルル
所以ハ、物財又ハ貨幣ノ犠牲ハ其ノ一定額ヲ前
提トスルニ反シ、勞働苦痛ガ費サレ得又費サル
ルデアラウトコロノ範圍ハ豫定サレテ居ラナイ
ト云フコトニ存スル。人々ガ何レカノ享樂ヲ達
スル爲メニ、即チ何レカノ欲望ヲ充足スル爲メ
ニ其等ヲ費サンカ否カ、費ストスレバ如何ナル
範圍ニ於テ最も合目的的ニナルカ、又如何ニ犧
牲ノ費消ヲ配分スベキデアルカラ考量スルトコ
ロノ不快感又ハ犠牲ヲ費用ト呼ブ。費用觀念、而

シテ實ニ此ノ心理的費用觀念ガ經濟ノ根本的顯現テデアル。第二ニ此ノ費用費消ヲ以テ享樂ノ極大限ヲ得ントスルコトハ經濟ノ本質ノ特色デアル。我々ハ、追及セラルル享樂ガ尙ホ追及セラレツツアル間ハ欲望ト呼ビ、到達セラレタル場合ニハ利用ト名付ケタイト思フガ、此ノ追及セラルル享樂モ亦費用ノ如ク其ノ強度ニ就テ互ニ比較セラルル。勿論純主觀的ニ止マル總テノ此等ノ考量及ビ比較ニ對シテ何ラノ外的表現ハナイ。

經濟的行爲ハ極大法則(Maximumprinzip)ニ從ツテ各種ノ欲望ノ上ニ費用ヲ最モ合目的的ニ配分スルコトニ他ナラス。而シテ勞働苦痛ガ費用トシテ、追及セラルル利用ニ對立セシメラルル場合ハ複雑ナル場合デアル。何トナレバ勞働苦痛ガ一定ノ範圍ニ於テ存在シナイカラデアル。然シ乍ラ此ノ場合ハ——其レハ交換交通ヲ理解スル爲メニ十分考ヘラルベキモノニシテ——固有ノ經濟的根問題デアル。快感・利用ノ感知

ニ就テハ、欲望ノ漸増の充足ト共ニ快感ガ強度ニ於テ減ズルト云フコト、所謂ゴツセンノ法則即チ欲望充足ニ用キラルル財ノ各繼續セル單位ハ漸減の快感・漸減の享樂ヲ齎ラスト云フコトガ適用セラレル。然シ乍ラ費用トシテノ勞働苦痛ニ就テハ、全ク一般的ニ云ヘバ、各々ノ繼續的費消、例之各繼續的勞働時間ハ、漸次ヨリ高ク評價セラレ、ヨリ強ク苦痛トシテ感知セラレル。ソコデ經濟的根問題ハ、其レ自身無限ノ然シ強度ニ於テハ漸増の充足ト共ニ減少スルトコロノ欲望ニ對シテ費消、費用ガ如何ニ配分セラルルカニ在ル。其ノ費用ノ範圍ハ豫メ一定セラレテ居ラズ漸増の費用ト共ニヨリ強ク不快トシテ感知セラレ、又其配分ハ出來ルダケ大ナル欲望充足ヲ目的トシテ行ハレルノデアル。是レ亦繰返シテ力說セラルベキ、全交換交通ノ根底トナル問題デアル。

然シ乍ラ費用トシテノ物財又ハ貨幣額ノ犠牲ニ在リテハ、人々ハ既存ノ量又ハ既定ノ額カラ

出發スル。此ノ場合ニ於テハ各單位ハ均等ニ評價セラレル。即チ人々ガ犧牲ニスルトコロノ、人々ガモハヤ追求シナイトコロノ利用、換言スレバ人々ガ更ニ使用シ得ベキ一單位ダニアラバ、調達シ得ベカリシ利用ニ由ツテ均等ニ評價セラレルノデアル。此ノ主張ノ争ンベカラザル根據ニ就テハ予ハ今ノ所予ノ「原理」ヲ援引シナケレバナラス。

斯クシテ經濟スル人間ノ問題ハ、予ノ費用費消ヲ以テ利用・欲望充足ノ最大量ヲ調ヘルタメニ、予ハ予ノ行爲ヲ如何ニ指導スベキカ、ト云フコトデアル。此レニ對ヘテ人々ハ、費用トシテノ物財又ハ貨幣ノ犧牲ニ於ケルト等シク勞働苦痛ニ於テモ適用シ得ルトコロノ次ノ如キ命題ヲ理論的ニ公式付ケルコトガ出來ル。曰ク、人ハ何レノ欲望種類ニモ用キラレル最後ノ費用單位ヲ以テ得ントストルコロノ費用以上ノ利用ノ超過ガ凡テノ欲望種類ニ就テ同一ノ大キサデアルヤウニ配分スル場合ニ經濟的ニ行爲スルノデ

アル。費用以上ノ利用ノ此ノ超過ヲ收益ト呼ブ收益ハ勿論殆ド全ク心理的ノモノデアツテ、其ノ故ニ利用ヤ費用ノ如ク數的ニ確立シ得ナイ概念デアル。斯クテ收益ハ經濟的行爲ニ對スル準繩デアル。經濟者ハ絶對的ニ最大利用ヲ追求スルノデハナク、費用ト比較シテ最大ノ利用ヲ追求スル。而シテ費用ハ勞働苦痛ノ本來的ノ場合ニハ始メカラ定マツテ居ルノデハナクテ、漸増的費消ト共ニ強度ニ於テ増加スル。同時ニ到達サレタル利用ハ強度ニ於テ減ズル。經濟者ハ斯クテ其ノ費用ノ費消ガ制限セラレル場合ニハ、彼ガ其ノ費用ヲ以テ尙ホ獲ラレ得ベキ利用ノ極大量ニ到達スルヤウニ、各費用單位ヲ費消スルモノデアル。然ルニ彼ハ費用費消ノ總量ヲ各種ノ欲望種類ニ費消スベキ最後ノ費用單位ヲ以テ到達スルトコロノ利用超過分又ハ收益ガ總テニ就テ等シキ大イサデアルヤウニ配分セネバナラス。各欲望種類ニ於テ最後ノ費用單位ヲ以テ到達セラレベキ此ノ收益、其レハ消費費經濟ニ於テ

ハ、タトヒ一般ニ確定セラレルニシテモ、時トシテ零ニ等シクナルコトモアリ得ルノデアルガ其レヲ我々ハ限界收益ト云ヒ、而シテ各種ノ欲望ノ上ニ費用ヲ最モ合目的ニ配分スルコトノカノ原則ヲ限界收益均等ノ法則ト呼ブ。

今如何程個々ノ經濟者ガ實際ニ又總テノ事情ノ下ニ此ノ原則ニ從フカト云フコトハ此處ニ此ノ上立入ツテ述ベル必要ハナイ。一切ノ經濟的行爲ガ從フトコロノ原則ノ認識ニ就テ最モ重要ナルコトハ、其レガ又同時ニ全交換、交通即チ「國民經濟」ノ構成原理デアルト云フコトデアル。交換交通ニ於テハ各人ハ先ヅ他人ノ欲望充足ノ爲メニ費用ヲ投ズル、然シ其レハ交換ニ由ツテ彼モ亦彼自身ノ欲望ヲ充足スルコトガ出來、且ツ彼ガ自己ノ欲望ノ爲メニ直接ニ働ク場合ヨリモ一層ヨク欲望ヲ充足スルコトガ出來ルト期待スル場合ニ限ルノデアル。此ノ故ニ經濟的行爲ハ二部分ニ分カレル、即チ營利經濟的行爲又ハ營利經濟ト消費經濟トデアル、經濟者ハ

先ヅ彼ノ營利行爲ニ於テ出來ルダケ高キ貨幣收益ヲ追求シ、ソレカラ彼ノ消費經濟ニ於テ此レヲ費用トシテ限界收益均等ノ法則ニ從ツテ費消スル。從來人々ハ、營利經濟ヲ技術的、數量的見地カラノミ考ヘ其レヲ經濟ナリトシ、各々ノ營利行爲ノ背後ニ經濟者ノ最後ノ經濟的考量ガ存スルトコロノ消費經濟ガアルコトヲ十分注意シナカッタ。トコロガ營利經濟ニ於テハ利用ト費用トハ甚ダ屢々モハヤ快感・不快感ニアラズシテ、貨幣額デアル。但費用ガ貨幣額デアルノハ唯、自己ノ勞働苦痛ガ費用動素トシテ重キヲナサザル場合ノミデアル。若シ自己勞働ガ重キヲナス場合ニハ、經濟者ハ心理的ニ利用ト費用トヲ比較シ、貨幣額ヲ對立セシメズ、一方ニハ欲望充足、他方ニハ勞働苦痛ヲ相互ニ對立セシメル彼ノ勞働力ノミヲ交換交通ニ於テ換價スルトコロノ勞働者ガ即チ其レデアル。營業主ノ自己ノ勞働苦痛以外ニ、就中「資本」ヲモ費消スルトコロノ所謂獨立ノ營利經濟ハ貨幣的ノ利用・費

用比較ヲ行フ。此ノ費用ハ貨幣額デアツテ又欲望充足ノ代リニ利用トシテ等シク貨幣額テ現ハレル。我々ノ心理的觀念ニ從ヘバ單ニ部分經濟タル、即チ消費經濟ニ於テ初メテ完了スルトコロノ本來ノ經濟的考量ノ一部分タルニ過ギザル斯カル營利經濟ノ歸趣トシテ現ハルモノハ、モハヤ欲望充足・利用超過・消費收益ニ非ズシテ貨幣純收益デアル。然シ乍ラ我々ガ忘レテナラナイコトハ此ノ收益ハ其ノ背後ニ存スル消費經濟ニ於テハ追求セラルル利用ト心理的ニ對立サセラルルコトデアル。

サテ此ノ消費經濟ト營利經濟トノ分離ガ行ハルル交換交通ノ主要問題ハ、如何ニシテ又何ニ由ツテ此處ニ費用費消ガ決定セラルルカト云フコトデアル。何トナレバ費用費消ハ最早自己ノ欲望ノ爲メニ行ハレズ、從ツテ追求セラルル利用ニ直接ニ對立セシメラレ得ナイカラデアル。交換交通ニ於イテハ何ニ由ツテ其ノ費用ガ決定セラルルカト云フ此ノ問題ハ、全經濟的理論ノ

主要問題タル價格ノ問題デアル。然ルニ此レニ就テハ從來ノ經濟理論ガ毫モ思ヒ及バザルトコロデアツタ。其ノ譯ハ從來ノ理論ハ供給ヲ一定セルモノト見做スカラデアル。從ツテ此レマデハ眞實ナル價格理論ガ全然存在シテ居ナカツタト云フ予ノ主張ハ決シテ不當デハアルマイ。試ミニ唯々此レマデ價格ト費用トノ關係ニ就テ教ヘラレタルトコロヲ讀メヨ。價格ハ費用ニ由ツテ決定セラルルト常ニ主張セラレ、所謂主觀的價值學說モ亦其レ以上ニハ出デナカツタ。然シ乍ラ如何ニシテ又如何ナル範圍ニマデ費用ガ或ル一ノ財ノ調達ニ投ゼラルルカト云フコトコソ眞ノ問題デアル。此等ノ費用ヲ人々ハ交換交通ニ於テハ供給ト呼ブ、而シテ此ノ供給即チ費用費消ノ大イサヲ説明スルコトガ價格論ノ第一ノ任務デアル。シカモ夫ハ此處ニ需要ト呼バルルトコロノ欲望ニ對立シテ説明セラルベキデアル。需要ハ殆ド個個ノ消費經濟ニ於ケル欲望ト同ジク、一定ノ大イサノモノトシテ見ルコトハ

出來ナイノデ、其レ自體ニ於テ無限デアリ、シカモ漸増の充足ト共ニ其ノ強度ニ於テ減ズルモノデアアル。如何ニシテ一定セザル無限ニ種々ナル欲望ニ對立シテ交換交通ニ於テ費用消費即チ供給ガ起ルカ、又如何ニシテ其レカラ價格ガ構成セラルルカト云フ此ノ問題ハ從來ノ經濟理論ニハ全ク不可解デアラネバナラス。請フ大イニ有名ナル所謂埃太利學派ノ價格論ガ需要供給ヲ如何ニ單ニ數量的ニ一定セル大イサトシテ見做スカヲ觀ヨ。實際交換交通ノ根底ニ存スルトコロノ我々ノ問題ハ、最近ニ於テスラ理論家ガ全ク無用ノモノトシテ居ルトコロノ收益觀念ヲ以テノミ解決スルコトガ出來ル。而モ事實ニ於テ此收益觀念ハ、既ニ各々ノ觀察モ亦示シタ如ク一切ノ經濟的行爲ノ規矩デアアル。貨幣收益極小量即チ予ガ交換經濟の限界收益ト呼ブモノガ、營利經濟ガ兎ニ角モ持續シテ財又ハ給付ノ供給ニ高々費消シ能フトコロノ費用ヲ決定シ、而シテ其レニ由ツテ財ノ價格ヲ決定スルノデアアル。

此ノコトハ一切ヲ交換交通ニ於テ供給サレル財及ビ給付ニ就テ當テ簞マル。斯クシテ營利行爲者ガ其ノ營業ニ於テ少クトモ交換經濟の限界收益ヲ得ルコトヲ期待スル限りハ、彼等ノ勞働力ト資本トヲ其ノ營業ニ投ズルノデアアル。總テノ營利行爲者ノ收益追求ニヨリ此處ニモ亦限界收益均等ガ行ハレ即チ均等ノ傾向ガ成立スル。勿論其ノ完全ナル實現ニ對シテハ今日ノ經濟生活ニ於テハ或ル障礙ガ邪魔ヲスル。總テノ營利行爲者ハ成ル可ク少ナイ費用ヲ以テ限界收益ヨリ大ナル收益ヲ得テ居ル。ソコデ限界收益ハ總テノ營利收益ト同様ニ消費經濟ニ於テ所得トナリ且ツ其處デハ費用トシテ評價セラルルノデ、斯クテ從來ノ物價ヲ考ヘニ入レテ、其ノ關係者ガ文化階段ニ相應スル生活維持ヲ成スコトガ出來ルホド高クナケレバナラスコトニナル。以上ノコトアルニ由リ、又提供セラルル財ノ何レニデモ費用ヲ投ジ得ル可能性ニ由リ、總テノ物價ハ相互ニ關係スルノデアアル。此レ亦財ノ價格ヲ其

ノ財ノ需要ト供給トカラノミ説明セントシタル從來ノ學說ニハ全ク認メラズニ殘ツタトコロデアル。人若シカノ收益最低限即チ交換經濟の限界收益ヲ得ルトコロノ賣手ヲ限界賣手ト呼ビ各種ノ財ニ對スル彼等ノ費用ヲ限界費用ト呼ブナラバ、各々ノ費用ハ限界費用、プラス交換經濟の限界收益カラ成立シテ居ル。茲ニ於テハ該交換經濟の限界收益ハ全國國民經濟ニ於テ所與ノ大サデアツテ、一般ニ費用ヲ決定シ且ツ上述ノ如ク自ラ又總テノ享樂財ノ總テノ價格ノ構成要素ヲ成スモノデアル。

以上ハ從來全ク明カニセラレナカツタ、收益概念ヲ以テノミ可能ナル、價格ト費用、並ニ供給、需要、價格ノ間ノ關係ノ説明デアル。之ヲ以テ今日ノ個人的收益追求ノ上ニ置カレタル交換交通ノ組織ニ於テ幾分規則的ナル最モ一般的ニシテ最モ屢々見ルトコロノ價格タル競爭價格ノ成立ガ説明セラレル。上述ノ競爭價格ノ外ニ賣手ノ優越地位、原料ノ制限的存在等ノ理由カ

ラ各種ノ形式ノ獨占價格ガ存在スルト云フコトヲ、予ハ嘗テ「社會科學彙報」ニ於ケル「競爭並ニ獨占ノ理論」ナル論文デ比較説明シテ置イタ。價格構成ノ説明ト共ニ同時ニ所得論モ亦本質的ニ盡キテ居ル。從來ハ眞實ノ價格論ガ無カツタカラ、所得モ、價格トシテ又ハ價格カラ成立シテ居ルモノトシテ、價格構成ノ理論カラ説明サレルコトガ出來ナカツタ人々ハ所得ヲ貨幣收益トシテデハナク、全然技術的・物質的經濟觀念ニ適應スル財量トシテ觀念シタ。而シテ個々ノ所得種別ヲ土地・資本・勞働ナル各種ノ「生產要素」ニ歸スルコトガ出來、所得ヲ生產過程ニ於ケル其ノ持分ニ屬セシムルコトガ出來ルト信ジテ居タ。而シテ總テノ從來ノ經濟學說ノ中心ト成ツテ居ルトコロノ此ノ所謂「分配論」ニ反對シテ予ハ予ノ各種ノ理論的著作及ビ目下準備中ノ著書ヲ學ゲネバナラス

(譯註―目下準備中ノ著書
トハ「原論」二卷ヲ云フ)

以上ヲ以テ大體予ノ理論の體系ノ根本思想ヲ述ベ得タリト信ズル。唯一言加ヘシメヨ。既ニ說ケルトコロカラ了解セラレ、又貨幣理論ニ於テモ明瞭ニセラルルデアラウガ、我々ノ理論ハ從來ノ總テノ理論ヨリモ遙カニ主觀的・個人的デアアル。從來ノ理論ハ所謂主觀的價值ヲ主張スル場合デモ尙ホ價值ノ一般的尺度、其レニ對スル一般的表現ヲ見出シ得ルト信ジテ居タ。換言スレバ彼等ハ價值ト價格トヲ混同シ、價格ハ主觀的價值ノ表現デアルト信ジテ居タ。然シ乍ラ此レハ最も根本的ノ誤謬ノ一デアツテ、普通ニ構成セラレタル價值概念カラ出發スルコトハ悉ク不可能デアアル。利用性ト稀少性カラ技巧的ニ構成セラレタル價值概念ハ交換經濟的過程ヲ説明スルコト能ハズ、唯々個別經濟ノ「純主觀的」觀察ノミガ其レヲ説明シ得ルノミ。

最近ニ於テ從來ノ客觀的價值論並ニ主觀的價值論ノ明カナル誤謬ノ上ニ、一層「社會的」ナル經濟理論、經濟學ノ社會學ヘ接近ガ推奨セラ

レ要請セラレタ。然シ乍ラ注意シテ置クガ、ソレハ要請セラレタダケデ、此ノ要請ヲ現實ニ滿スコトニ對シテハ殆ド事實上ノ試ミガナサレナカツタ。此レニ就テ予ハ予ノ方法的諸著作ニ於テ、經濟學ト社會學トノ區別ヲ設ケ、前者ノ任務ニ嚴重ニ限界ヲ與ヘ、經濟理論ハ單ニ個人的デアリ得ルノミト云フコトヲ示シタ。其ノ譯ハ交換交通即チ所謂「國民經濟」ハ、從來人々ガ常ニ考ヘテ居タ如ク、特有ノ目的ヲ持ツテ居ル有機體テハナク、唯々諸個別經濟ノミガ其ノ目的ヲ追求シテ居ルニ過ギナイカラデアアル。全交換經濟ノ有機體ニ動力ヲ與ヘ其ノ運動ヲ持續セシムルモノハ個人ノ收益追求デアアル。故ニ個人ノ努力ト其ノ經濟的考量トカラ總テノ交換經濟的過程ガ説明セラルベキデアアル。

以上ノコトハ貨幣ノ現象ニ就テモ妥當デアアル而シテ我々ハ個別經濟ニ於ケル貨幣職能ノ正シキ觀念カラコソ、我々ノ全貨幣論及ビ其レガ齎ラストコロノ新シキ諸認識ガ生レ出ヅルコトヲ見ルデアラウ。